

脱炭素・持続社会研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	本プログラムは日本を含むアジアを中心とした国レベルで必要となる取り組みや制度を、モデル等を用いて具体的に検討するものであり、大変重要な研究プログラムである。	ご意見ありがとうございます。ご期待に添えるように取り組んでいきます。
	短寿命気候強制因子の削減対策を網羅的に評価するために、メタンと HFCs に着目する部門の拡充を進めるという方針を評価する。	
	2050 年に GHGs 実質ゼロ排出を達成するためのロードマップはどのように策定するのか？	
今後への期待など	他分野との連携を強化し、また所外の研究者との連携もより一層強化して進めていくことが重要である。	有効な連携につなげるには時間が必要ですが、今年度は所外の研究者との情報交換などを進めてきましたので、こうした取り組みをさらに進めていきます。
	中途中途で成果を発信するような構成にすることが望ましい。	世の中の動きにあわせて、計画期間の間でも必要な情報を発信して行く予定です。
	「持続可能な社会」はより多様な理解・姿がありうるため、持続可能とは何をいうのか自体に切り込むような研究を期待する。	「持続可能とは何をいうのか」については、研究を超えた基盤でもありますので、プログラムのメンバーに関わらず議論していきます。
	世代間衡平性は大変重要であるため、今後もこのような難しい問題に精力的に取り組んでいくことが望ましい。	世代間衡平性に関する研究には多くの困難がありますが、取り組みを続けていきます。